

高濱正伸先生講演会「これからの時代の子育て」

2020年10月6日に「学びを止めるな！ by 有志 PTA 連合」主催、都小P協力のもと、高濱正伸先生の講演会がオンラインで開催されました。高濱先生は「この国は自立できない大人を量産している」という問題意識から、「メシが食える大人に育てる」という理念のもとに学習塾「花まる学習会」を設立し、現在では全国各地を講演会で回られております。貴重なお話の一部を当方でまとめてご紹介いたします。

勉強だけは信じられる

今の時代は「好きなことに没頭しよう」というようなことが言われがちです。しかし、義務教育期間中で学ぶ基礎的なスキルは絶対必要です。何か新しい事をしようとしても、分からない空白部分を埋めるのは、学ぶ力が必要です。

中学、高校くらいまでの基礎教養がないと、いざというとき自分に不足している部分を補うことが出来なくなります。これが必要だと思っていることが、勉強して出てしまうということがわかります。新しい事が次々生まれてくるなか、新しい事を学ぶ力は一番必要な能力だと思います。

人の作ったランキングに合わせるな

「東京の中心の高級なマンションに住んでいて、旦那も高収入で、背も高くイケメンで、子供たちにも恵まれて、最高の幼稚園に行って幸せそうでしょ？全部そろっています！」なんていうのに、「今幸せじゃないんです。」って言っている人をたくさん知っています。

何が間違っているかって言うと、人の作ったランキングに合わせているんですね。偏差値がより上の方が良いから、さらに上を求める。ある学部に行かないと自分のやりたいことが出来ない、というなら良いのですが、成績だけを目標にして生きてしまう。

自分のやりたい仕事じゃなくて、就職ランキングの上位にいきたいとか。ランキングに心を奪われてしまって本当に何がしたいのか分からなくなってしまっているのです。

10年後の未来は見えない

どんな時代になっても皆さんのお子さんが飯が食えるようになるためには、一体どうすれば良いのか？と考えます。

特に今は、もうまさに大変化の時代。様々な企業が塗り替えられていくことが、次々起こります。今はまだ言葉になっていないような技術が生まれていくでしょう。日本のトップの人や色々な学者さんとも話してみると、口を揃えて言うのは、「もう10年後はわからない」と言います。

世の中を見通すとよく言います。過去の「母親が選ぶ就職して欲しい企業ランキング」上位企業は、今では軒並み業績不振ということになっています。親なら誰もが、大企業に就職して欲しいと思うと思います。しかし、今、親として自信を持って、この道に進みなさいと言えない時代になってしまったのです。

ですから、どんな時代になっても人の責任にしないで、自分で仕事を生み出し、新しい時代を作って、時代を引っ張っていくような人になって欲しいわけです。

例えば、岡田光信さんは、宇宙ゴミにまともに取り組んでいるところはないことを知ったそうです。そこで世界中の論文を300本ぐらゐ調査し、自分なりのアイデアを盛り込み40歳で宇宙ゴミの除去サービスを立ち上げたました。もし、これが成功したら、世界中で初めて宇宙ゴミを除去したという偉大な人になるわけです。こうした事例もあります。

人が集まってくる人間としての器

人は結局、人のつながりで生きています。どんなに時代が変わろうが、結局あの人がって良いよね、みたいな事で動いているんです。だから自信を持って「うちは人間力で勝負するぞ」というのもアリだと思うんです。同じモノを売っていても、あの店のあの人から買いたいっていうのはありますよね。

あの人のところに行きたい！と思わせる人間であれば、ちょっとぐらい足りないことがあっても、結構居場所があるものです。「ちょっとあいつ憎めないよね」と言いながら、この人がいるおかげで、この部署が和むみたいな存在です。

これもすごい力なんです。それはどこから出てくるかという愛された体験なんですよ。

赤い箱と青い箱

人類の長い歴史の中で、『幼児期』『思春期』という言葉があるように、子どもの特性が生体と共に変化します。大きく分けてですが、子育ては「赤い箱（おたまじゃくしの時代）」と「青い箱（若いカエルの時代）」の2つのに時間軸を分けて対応を変えようまくいきます。

赤い箱は4歳から9歳、青い箱は11歳から18歳の時期です。赤い箱は芋虫の教育、青い箱は蝶の教育です。芋虫には芋虫の教育、蝶には蝶の教育をしっかりしてあげなければいけません。

4〜9歳の赤い箱の時期は芋虫のようにちゃんと葉っぱを食べさせなければいけない、しかし11歳から18歳の青い箱に入ったら飛び方を教えなきゃならないのです。青い箱に入ったら、親ではなく誰に育ててもらおうかを考えなければいけないのです。大人の本音を知ったり、哲学する体験、器を広げる体験など、親が子どもに直接教えられない部分です。

例えば、外国に行ったり、外国の人と話したり、貧しい人と話したり、障害のある人と接したことがあるとか、異学年の人と遊んだり、親以外の大人と接することなどです。

基礎力を育てる

漢字や計算などの基礎学力は、お城で言えば石垣に当たる部分です。ここがしっかりしていないと上に積み上げることが出来ません。社会人になったら全員当然出来る部分です。しかし、この基礎力は、思考力があったり、空間認識力があったり、頭の回転が速いといった子ほど、嫌がります。

しかし、漢字が読めないや問題文が読めなくなり、知識が曖昧になると、本人は分かっているような気がしても、実際はよく分かっていないことが多いです。よく分かっていないにもかかわらず、文章や問題文を平気で読み進んでしまっています。

ここでは、問題を理解して解くことも出来ないばかりか、将来文章を読んで正しく理解することも出来なくなります。言葉に対しては厳密である必要があります。少しでも分からない事があったら調べるようにしたいです。

専門性を身につけよう！

専門性も重要で、特に言われるのは体系的な専門力をつけていくのも良いと思います。その中でも数学が一番その軸になるでしょう。

経済でも数学が重要ですし、文系のデータを扱うにしても統計の数学が分かっていないといけいないなど、数学はやって損が無いと思います。専門性は、魚でも、お城でも、歴史でも、何でも良いと思いますが、世界と対等に渡り合う以上は数学が良いと思います。

GIGA スクール構想について聞いてみました！

どうなる日本の教育！？

GIGA スクール構想が前倒しでスタートしましたが、どんな期待をいざしているのが教えて下さい。

教育の可能性が広がりました。コロナ禍で、教育現場にも大きな影響がありました。オンラインでしかつながらないという状況で、先生も保護者の方も、考え、悩み、模索する時間が続くなかで、これまで、「画面だけでは難しい」とされてきた幼児〜小学生の学習において「ここはオンラインでもやれる」という部分に目を向けるきっかけになったと感じます。

一方で、対面でこそ伸ばせる部分があるのも事実。これからは、リアルとオンラインの融合、ハイブリット型になっていくでしょう。計算や漢字などは個々で進めることができるものは家庭学習で、授業は集まってやる意味があるもの、例えば、お互いの問題を出し合ったり、研究・発表したり、それを踏まえて考え抜いたりなどの探求的な活動などに充てられます。

GIGA スクール構想については、既に先進的な自治体は、どんどん面白いことをやっています。それによって成績が、とても伸びているという例があり、非常に大きな可能性を作ったと思います。

GIGA スクール構想で得られるメリットの反面、懸念されることありますか？、それはどのようなことでしょうか？

初めてのことには、必ず副作用が出てきます。全国一律に始まるのでネット環境が行き届かないとか、つながらないというときに、どのくらいつつがなく、授業が進められるのかということとは大きな問題になるでしょう。Wi-Fiなどの整備も重要です。ここをちゃんとやるというのは結構な努力が必要でしょう。PCが一人一台ずつ配布されて、自治体によっては、自宅に持って帰っても良いところもあれば、持って帰ってはいけないという所もあるでしょう。それによってどう差が生まれるのか。また、子どもがアクセスできるページの制限やセキュリティ問題も、課題として挙げてくるでしょう。

日本は ICT 活用度において最下位となってしまうましたが、それはどういう背景があるのでしょうか？

電子国家として有名な東欧のエストニアは、とても遅れていたところから改革した結果、様々な面が一気に電子化され、注目されました。それに比べ日本は、既に様々な面で利便性が高く、徐々に電子化していくという進化をしています。電子化のためには、既存の仕組みを壊さないといけません。せっかく作ったものを壊してまでやる必要があるのだろうか？という問題が発生してしまうのです。日本は、ある程度うまくいっていたからこそ、変えるものが変えられないという壁が、立ちただかっているのです。大人は、自身が育った環境を「正解」として捉えやすいので「学校の授業を画面だけ

でやるのってどうなんだろう？」と、変化に対する問題点の方が大きく扱われやすくなります。長期的には突破できると思うのですが、そういう壁が各家庭や地域であると、しばらく時間がかかるでしょう。

先生は自然との関わり合いが大変重要とのことでしたが、東京のような都会の日常生活で出来ることがありましたら教えて下さい。

野外体験を重視しています。山や森まで行かなくても、自分の家の庭や公園にある木から季節の移り変わりを感じることが出来ます。春は花が咲き、夏に葉が茂って、秋に紅葉になり、枯れていったように見えて、冬を越えて、春になったら芽からまた葉が出て…。虫や鳥などの動物も実はものすごい数がいいます。そういう身近なものを感じたり研究することでも、感性を高めることは十分に可能です。都会の中でも自然の中で出来ることはいっぱいあるんです。例えば、自然の中は平らではないし、木の根などが出ていたりします。危ないんだけど、だから、そこでサッカーをやろうとすれば、新しいサッカーのルールが出来たりします。創造的でクリエイティブな遊びが生まれ、整備されたグラウンドでやるよりもむしろ頭を使って遊ぶでしょう。工夫しながら遊ぶというのは色々なところで出来るのです。

